



備後一の宮

たていし園瓦版

http://www.tateishien.co.jp
info@tateishien.co.jp

VOL. 27
11月1日号



この時期限定体が温まる飲み物

秋本番。寒くなってきたこの時期。期間限定で体が芯から温まる飲み物でほっとしまししょう。滋養強壮効果で知られる日本の薬味「生姜」は生姜他にも食欲増進、車酔い防止効果、冷え性、喉にもやさしいなどの効果があります。くず湯は体を温めるため、発汗作用環状動脈の血行を良くし、高血圧を予防する効果があるといわれています。

リラックスタイムのおともにもこの時期ならではの飲み物はいかがですか？

しょうが湯

生絞りしょうが湯（玉露園）

22g x 5袋：294円（税込）

生絞り花梨しょうが湯（玉露園）

22g x 5袋：336円（税込）

しょうが湯（玉露園）

20g x 7袋：315円（税込）

黒豆しょうが湯（玉露園）

160g（約8杯分）：315円（税込）

くず湯

しょうがくず湯（玉露園）

25g x 7袋：346円（税込）

抹茶くず湯（玉露園）

25g x 7袋：346円（税込）

梅くず湯（玉露園）

25g x 7袋：346円（税込）

備後一の宮

福山市新市町にある備後一の宮。（通称いきゅうさん）

11月19日、23日、中世の頃の市の再現といわれる大規模な市が開かれます。300程の露店が軒を並べ数万人の参拝客で賑わいます。

毎年好評の「つぼしるい」

毎年ご好評をいただいております「つぼしるい」今年も11月中旬より販売予定です。

しょうが湯やくず湯もおすすめてですが、このしるいも、お湯を注ぐと回りのもなかがお餅の様な食感になっておいしいですよ。

ひとつひとつ手づくりのためお待たせすることもありますので早めにご予約いただくと確実です。

こしあんと抹茶の二種類で各157円です。ちよつとしたご贈答に「つぼしるい」セッ（こしあん6個、抹茶3個）1575円もご用意できます。



茶の雑学「淹れる」（いれる）

「お茶をいれる」といつときのいれるには「入れる」、「煎れる」、「淹れる」などの字が考えられます。

NPO法人日本茶インストラクター協会が、社団法人日本茶業中央会の試験委員会で検討していただいたところ、「入れる」は物の出し入れであり「急須に茶葉を入れる」などには当然使いますが、抽出行為には適さないとのこと、また「煎れる」は「せんじる」ことで京番茶や碁石茶などの沸騰状態の湯で煮出す茶には適当ですが、煎茶中心の現在では適しません。

結局、茶経にも記述されている「急須に茶葉を入れ、湯を注いで飲む」「煎茶（えんちゃ）」が現在の煎茶を中心とした茶の飲み方に適していることから、協会では「淹れる」を統一用語として使用することになりました。雑学として覚えておくと良いかもしれませんね。

お茶の歴史

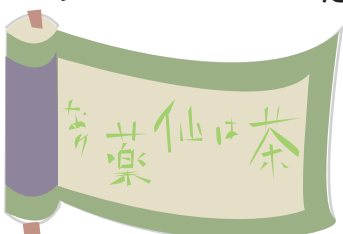
日本茶の祖「栄西禅師」

平安時代の遣唐使廃止後、日本にお茶が再び伝えられるのは鎌倉時代、臨済宗の開祖・栄西禅師が宋からお茶の種子を持ち帰り、佐賀県に植えたことがきっかけでした。

この時代に伝えられたお茶は抹茶に近かったようです。喫茶習慣は天皇や貴族だけでなく、禅宗と結びついた武家階級の間にも広まりました。

やがて、栄西禅師から茶種を譲り受けた京都の高僧・明恵上人が本格的な茶の栽培を根付かせます。このとき、明恵上人が選んだ土地、武蔵河越、駿河清見、伊勢河原、伊賀八鳥（服部）、大和室生（室尾）は後に銘園五場と呼ばれ今日著名な茶産地の源となっています。

「お茶は養生の仙薬なり。延齡の妙術なり」これは栄西禅師が著した日本初の茶書「喫茶養生記」の序文で、800年前すでに明文化されているのには驚かされますね。煎茶がお茶の中心なり庶民の口に入るようになるのは江戸時代になります。



編集後記

先月末、九州の八女市、嬉野市、有田市へ行き、焼物やお茶屋さん、茶畑を見学してきました。リフレッシュもできたし、他を見ることでとても勉強になりました。茶の木には今ちょうど白い花がっていました。

